

みやぎ  
地域防災の  
アイデア集

10

## 活動資金の確保

### 1 市町村、各団体等の補助制度

事例10-1-1 【白石市】 目的に合わせた助成金の活用

事例10-1-2 【栗原市】 コミュニティ助成金の申請・活用

### 2 独自の収入確保

事例10-2-1 【岩沼市】 資源回収による収入確保、資機材整備等

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

## 10 1 市町村、各団体等の補助制度

- 自主防災組織を運営していくためには、日常的な活動や資機材及び備蓄品の調達等、組織が活動するための財源を確保し、また限られた財源の中で効果的な活動ができるよう工夫する必要があります。
- 市町村による自主防災組織の経費補助制度のほか、まちづくり関連の補助金や助成金、その他に自治会と連携して予算の配分を行う例もありますので、活用できる補助制度がある場合は有効に活用しましょう。

### 進め方とポイント

#### 活用できる制度(市町村)の例

- 自主防災組織への経費補助制度を持つ市町村もあり、その内容は、資機材購入費補助、運営(活動)費補助、設立時補助、倉庫等建設費、その他などに分けられます。

#### その他の補助金や助成金の例

- 上記の他に、自主防災組織が利用できる補助金や助成金には、以下のようなものがあります。
  - ▶ 一般財団法人自治総合センター「コミュニティ助成事業」  
宝くじの社会貢献広報事業として、コミュニティ活動に必要な備品や集会施設の整備、安全な地域づくりと共生のまちづくり、地域文化への支援や地域の国際化の推進及び活力ある地域づくり等に対して助成を行い、地域のコミュニティ活動の充実・強化を図ることにより、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与する。

<https://www.jichi-sogo.jp/lottery/comunity>



## 事例 10-1-1 目的に合わせた助成金の活用

## 白石市 三住自主防災会

- 三住地区では、市の自主防災組織向け助成金を活用し、非常食などの消耗品の整備を行った。
- 過去の災害経験から大型の発電機が必要であるという認識の下、宮城県の助成金と自主財源により、発電機を整備した。

## 進め方とポイント

## 準備

- 自分たちが活用できる助成金を調べる。
- 自分たちの地域にとって重要度の高い資機材等を検討する。

## 複数の助成金の活用

- 白石市の助成金(年間2万円)を、非常食などの消耗品と、ダンボールベッドの整備に充てることにした。
- 東日本大震災などで停電で苦勞した経験から、自主防災会の拠点施設である「三住地区研修センター」で使用するための大型発電機を購入することとし、県の助成金(50万円)と、自治会の自主財源を充てた。
- 購入した発電機は、自主防災会の防災訓練の中で、使い方を確認した。

## この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 過去の災害経験から、必要な物品の優先順位付けについて合意を得ることができた。
- 市の危機管理課が防災用品のカタログを貸し出し、購入物品の見当をつけやすいようにサポートをした。



地域で購入した発電機

01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

## 事例 10 1 2 コミュニティ助成金の申請・活用

## 栗原市 高清水地区九区自治会自主防災会

- コミュニティ助成金とは、「一般財団法人 自治総合センター」が実施している宝くじの社会貢献広報事業の助成金の通称である。
- この助成事業はいくつかに分かれており、その中の「地域防災組織育成助成事業」を活用し、防災資機材の充実化を図ることとした。

## 進め方とポイント

## 準備

- 助成事業については、一般財団法人 自治総合センターのホームページに記載されている。  
【一般財団法人 自治総合センター ホームページ】  
<https://www.jichi-sogo.jp/lottery/comunity>
- 申請にあたり、購入を検討している備品が助成対象かどうか、また、助成金の区分によって助成金の額も変わるため、各市町村の担当窓口にて予め相談する。



## 手続きの流れ

## ①申請

- 助成申請書(様式1号)を作成し、市町村を通じ県に提出する。

## ②審査

- 県は、内容を審査の上、「一般財団法人 自治総合センター(以下「センター」という。)」に提出する。
- センターは、内容を審査の上、助成を決定する。

## ③助成金の交付

- 実績報告書(様式3号)を作成し、市町村を通じ県に提出する。
- 県は、内容を確認の上、センターに提出する。
- 高清水地区九区が今回整備した備品リストは下表の通り。

1	災害時用浄水器	1個		258,000円
2	水洗式ポータブルトイレ	2個	@17,600円	35,200円
3	プライベートテント	2個	@4,950円	9,900円
4	まかないくん50	1個		294,800円
5	まかないくんLPGバーナーセット	1式		96,800円
6	まかないくん50型鍋	1個		77,000円
7	小型除雪機	1台		344,500円

## この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 必要性や優先順位の議論を重ね、粘り強く申請を続け、今回の当選となった。

## 10 2 独自の収入確保

- 自主防災組織の運営はボランティアですが、必要な資機材の購入などに相当の費用がかかります。行政や各支援団体による補助制度に加え、独自の収入の確保により、活動の幅も広がり効果的です。
- 自主防災組織が自治会やマンション管理組合等の一部として設立されている場合は、自治会やマンション管理組合の予算の一部を利用することができますが、独立した組織として設立する場合は、固定収入の確保が難航する場合があります。

### 進め方とポイント

#### 独自の収入確保

- 自主防災組織が自治会内やマンション管理組合内に位置付けられる場合は、自治会費や管理費収入の一部を充てたり、自治会費等とは別に、会費を徴収したりするケースがあります。
- 自治会員等の協力により資源回収を行い、その収入を充てるケースや、地元の商店会や企業からの寄付金を募っているケースもあります。
- 自主防災組織の備蓄品や資機材の一部を各家庭からの持ち寄りとしたり、リサイクル品や廃材を活用したりする例や、資機材を遠方の地域と共有し、自地域の災害時には必要な資機材を借りられるよう工夫している例もあります。
- 他にも、地域のイベント収入や視察受入を有料としたり、地域の協議会で積み立てたり、中には駐車場や公園等の利用料金を財源に充てているケースもあります。



01

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

## 事例 10 2 1 資源回収による収入確保、資機材整備等

## 岩沼市 二木第一町内会自主防災部

■ 二木第一町内会は、アルミ缶などのリサイクル資源の回収に力を入れ、売却収入により、防災資機材の整備や先進地域の視察等に活用している。

## 進め方とポイント

## 経緯

- 以前は、資源回収は子供会が実施していたが、少子化の影響により、現在は町内会で実施し独自の収入としている。

## 資機材整備

- 防災活動に必要な資機材を毎年整備し、防災訓練や災害時対応のほか、町内会行事等でも活用している。

## 先進地視察

- 資源回収で得た資金で、県内の先進的な自主防災組織や、防災関連企業等の視察を行い、町内会で取り組む自主防災活動に反映・還元している。



収入の用途について会議で検討する



アルミ缶リサイクル協会から表彰された

## この取組のポイントや「なぜ、できたのか」など

- 地域全体で協力して資源回収を推進し、町内会の継続的な収入手段を確保するとともに、住民が共同利用する防災資機材の拡充や防災活動に活かしている。
- 町内会役員や多くの住民がリサイクル及び防災対策の両方に携わることにより、収入が両活動の目標につながるなど、持続的・発展的な取組となっている。